

平成20年度「新目標チャレンジ」表彰課所

- 選定・評価の考え方
 - ・新目標チャレンジに積極的に取り組み、顕著な成果を収めた課所を知事表彰する。
 - ・①目標設定の適切性，②目標達成に向けた組織(職員)の努力，③目標達成度(成果)の観点で評価
- 審査の流れ
 - ・各部局から1～3課所を推薦
 - ・推薦された課所から表彰候補案を選定し，行革推進本部一部会議メンバーにより審査
 - ※「県民サービス・事務改善部門」は外部有識者（茨城県経営品質協議会：鬼澤慎人氏，三宅邦之氏）の意見聴取結果を踏まえて審査
- 表彰候補
(施策推進部門)
 優秀賞：3，努力賞：5，継続努力賞：1
 (⑱：同4，同2，同0 ⑲：同2，同4，同1 ⑳：同2，同3，同2)
 (県民サービス・事務改善部門)
 優秀賞：1，努力賞：1，継続努力賞：1
 (⑱：同2，同3，同一 ⑲：同0，同2，同一 ⑳：同1，同2，同一)

《施策推進部門》

【優秀賞】浄化槽補助制度を活用した生活排水対策の推進（廃棄物対策課）

目 標 数 値 等	実 績
①高度処理型浄化槽(N型, NP型)設置補助：690基 ②単独処理浄化槽撤去補助：300基 【補助実績】 ・高度処理型浄化槽設置設：⑳367基 ㉑348基 ・単独処理浄化槽撤去補助(H19～) ㉑：0基	①1,051基(見込) ②330基(見込) 【参考：H20全国順位(見込)】(本県調べ) 《高度処理補助》 ①茨城：1,051基、②千葉：1,031基 ③愛知：465基 《単独撤去補助》 ①千葉：618基、②埼玉：520基 ③茨城：330基
(表彰理由) ○補助制度の県民への浸透を図るためには市町村の理解と協力が必要不可欠であり、部課長自らが先頭に立って首長と直接トップセールスに出向いたほか、関係団体への説明にも職員一丸となって繰り返し取り組んだ今回の努力は評価できる。 ○県民等へPRを強力に行うため、従来の広報手段に留まらず、住宅展示場へ初めて出向き、新築を考えている来場者などに適切な情報提供を行うなど、これまでにない、きめ細かな取り組みは県民サービスの観点からも評価できる。 ○結果として、高度処理型浄化槽の設置基数が前年度比3倍増(703基)の1,051基となる見込みで全国1位に。また、撤去補助基数も330基と全国3位の実績を残したことは、新税として導入した森林湖沼環境税の有効活用のPRにもつながり、関係者の目標達成に向けた並々ならぬ努力は高く評価できる。	

【優秀賞】子育て家庭応援「家族優待制度」推進事業協賛店舗(施設)数のアップ (子ども家庭課少子化対策室)

目 標 数 値 等	実 績
協賛店舗(施設)数：4,000カ所 ※19年度：2430カ所	4,500カ所 (20年度末見込み) [直近の実績] 2月末現在：4,269カ所
(表彰理由) ○制度創設初年度の昨年は、大手チェーン店など大口の店舗が協賛店として名乗りを上げ、徐々にその裾野を広げていったが、景気の低迷により企業の経営環境が激変する中、今年度は毎月100店舗以上増やしていくことは、相当困難を極めたが、室長以下室員一人ひとりが役割分担をはっきりさせ、責任をもって協賛依頼に昼夜を問わず奔走した。 ○特に、他県の協賛店舗の傾向などのこまめな情報チェックや協賛店舗紹介チラシの作成、さらには予算をかけずにタウン誌への記事掲載を進めるなど、日々の地道な努力が実を結び目標を上回ることができたことは高く評価できる。	

【優秀賞】エコ農業の推進（県南地方総合事務所農業課）

目 標 数 値 等	実 績
エコ農業茨城に取り組む県南地区数 : 306地区以上 ※管内の全農業集落数 : 1168	1134地区がエコ農業茨城に取り組む (目標の370%。3年間の目標をほぼ1年で 達成)
(表彰理由) ○エコ農業の推進を図るため事務所を中心に県関係機関(普及、土地改良)と連携し、支援チームの立ち上げや、市町村と農業団体との緊密な連携に向け戦略的に働きかけを行うなど、その地道な努力は評価できる。 ○特に、管内の市町村の動向(龍ヶ崎、美浦がエコ農業に関心をもつ情報)を的確に把握し、エコ農業導入に向けた働きかけを短期集中して行い、先駆的な取り組みをモデルに、周辺市町村へ働きかけを行い目標を3倍も上回る成果を収めたことは、本県農業・農村のイメージアップにも大きく寄与するものであり高く評価できる。	

【努力賞】市町村への旅券事務権限移譲の推進（国際課）

目 標 数 値 等	実 績
権限移譲決定市町村 18市町村	42市町村に移譲決定 (水戸市を除けば全市町村へ移譲) ※つくば市 : 平成19年4月移譲済
(表彰理由) ○県民に身近な市町村で旅券の申請・受給ができるよう、権限移譲のメリットなどについて、国際課の職員が一丸となって首長へのトップセールス等を行い目標を大きく上回る成果を収めた。 ○特に、初めて業務を行う市町村の不安を取り除くため、職員への説明会や研修会を繰り返し実施するなど、市町村の立場に立って業務を推進したことは高く評価できる。	

【努力賞】効果的な霞ヶ浦湖上体験スクールの実施（環境対策課水環境室）

目 標 数 値 等	実 績
湖上体験スクールの評価 : 平均80点 以上 ※引率教員のアンケート点数化	:平均90点の評価 (回答者175名) ※参加児童理解度把握クイズの正答率は 年平均84点(高学年) ※179回の湖上体験スクールを実施し、6,189 人(引率含)が参加。(2月末現在)
(表彰理由) ○霞ヶ浦の水質浄化に向け、児童・生徒に体験学習を通じ、意識の醸成を図る今回の取り組みは、関係職員の地道な取り組みにより、参加者数が当初の見込(4,500名)を大きく上回り6,000名を越した。学校関係者からは、児童・生徒の水質浄化に対する理解促進につながったとの高い評価の声。 ○特に、湖上スクールの実施に向けた学校関係者へのデモンストレーションの実施や、スクールに携わる関係機関の職員との意見交換を頻繁に行うなど、スクールの内容充実に向け、課題の抽出とその改善に迅速的確に取り組むなどの日々の努力は高く評価できる。 ○目標とする教員向けアンケートでは、設定を上回る成果を収めたことは関係者の熱心な取り組みの成果であり、参加した子どもたちからも好評を博している。	

【努力賞】つくば型アグリビジネスの推進(つくば地域農業改良普及センター)

目 標 数 値 等	実 績
①農業体験を実施する経営体：47 [19：26経営体] ②農業体験による農家収入向上100万円 以上：10戸 [19：4戸] ③つくば地域の物産を使用したお土産 商品づくり：1商品	①51経営体 ②11戸 ③2商品(ブルーベリージュース、米粉ケーキ)
(表彰理由) ○普及センターが提案した「つくば型アグリビジネス」が、管内の農業者と他業種の人々との新たな交流を生み、農業体験を農業経営の一部門とする経営体(推進母体：つくばいなか体験応援隊)が徐々に拡大。こうした消費者目線の取り組みは、普及センターのプロジェクトチームを中心とした経営向上に向けた支援や、農業体験メニューづくり等、きめ細かな支援を地道に行った大きな成果である。 ○また、「つくばの顔」となる地域農産物を活用した商品開発を行うため、農業者と商業者との連携にとどまらず、観光業者との連携の必要性を繰返し説明するなどして、農商工連携による支援を強化させた先駆的な取り組みは目を見張るものがある。 ○一連の普及センターを挙げたさまざまな取り組みが、地域農業のイメージを一新し、都市と農村が共生・交流する新しい農業のスタイルの構築につながっていったことは高く評価できる。 ※「つくば型アグリビジネス」 農業者が都市住民等に農作業、収穫、農産課加工体験等を提供し、農業文化や田舎の癒しを体験してもらう新しい農業経営の姿	

【努力賞】底曳網で漁獲される未利用魚のカンテンゲンゲの活用(水産試験場)

目 標 数 値 等	実 績
未利用魚「カンテンゲンゲ」を活用 した料理の提供店舗数：10店舗 [19：0店舗] ※カンテンゲンゲ：スズキ目ゲンゲ科 ・全長：39cm 体重：260g ・全身寒天状で白身の淡白な魚肉 ・日立市久慈漁港所属底引網船で漁獲	10店舗(1/20現在) ※「久慈浜産深層の珍味」として売り出し、メニューには蒸し物、サラダ等がある。
(表彰理由) ○未利用魚であるカンテンゲンゲの商品価値を高めるための今回の取り組みは、他県での事例を踏まえ、水産試験場が中心となって戦略的に行われたことは評価できる。 ○特に試験場職員が、新たな流通形態を作り上げるため、未利用魚流通の中核組織の立ち上げや商工会や飲食店業界などとの接触に先頭になって取り組み、目標を達成に至ったことは、従来の試験場の取り組みを超えるものとして高く評価でき、漁業振興を図る観点からも今後一層の取り組みが期待できる。	

【努力賞】洪水ハザードマップ及び土砂災害警戒区域の公表(河川課)

目 標 数 値 等	実 績
①洪水ハザードマップの作成公表 市町村数：17市町 [19 5市町村] ※17～19：16市町村 ②土砂災害警戒区域の指定公表 市町村数：17旧市町村 [19 10旧市町村] ※18～19：17旧市町村	①16市町見込 [3/9 現在：7市町] ※残り9市町は3月末までに市町が公表 ②17旧市町見込 [3/9 現在：9旧市町] ※残り8旧市町は3月末までに県報登載
(表彰理由) ○本県は災害被害が少ないうえ、ハザードマップや土砂災害警戒区域の公表により、住民の財産価値が低下するのではとの強い懸念もあり、事業進展は困難を極めた。 ○しかしながら、いざという時のための備えであるマップ等の作成の重要性・必要性を課員一人ひとりが強く認識し、国の補助制度を有効活用しつつ、マップ等の作成・公表までの進行管理を徹底しておこなった結果、全国低位にあったハザードマップについては、過去3年で16市町村であったものが、本年度だけで16市町を達成(前年比240%)し、全国の平均水準まで高めた。また、土砂災害警戒区域の公表にあっては、過去2年で17旧市町村を指定であったものを本年度だけで17旧市町村で公表(前年比170%)と相当な成果を収めたことは高く評価できる。	

【継続努力賞】旧道移管の推進（道路維持課）

目 標 数 値 等	実 績
旧道移管延長：20km 〔1934km〕	26km〔年度末見込〕 ※23.3km〔3/10現在〕
<p>（表彰理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○厳しい財政状況の中、県が今後も多くの道路の維持管理をしなくてはならない中で、本庁・土木事務所が一体となって明確な目標を設定し、それぞれが適切な役割分担のもと業務を計画的に推進したことは評価できる。 ○特に、昨年以上に協議困難な箇所の高比重の中で目標を上回って達成できる見込みであることは高く評価できる。 ○また、維持管理コストを次年度以降1億3千万円縮減できる見込みであることも厳しい県財政を考慮すると相当大きな貢献である。 ○年々道路の維持管理費が削減される中、移管による縮減分を他に充当し、極力維持管理水準の低下をまねかないようにすることは、道路を利用する県民の安全確保に直結する成果。 	

《県民サービス・事務改善の部》

**【優秀賞】出張受付による認定更新事務（LPガス法）の効率化
（県北地方総合事務所商工労政課）**

目 標 数 値 等	実 績
出張受付率：60% ※LPガス法に基づき5年に1度、認定保安機関の更新を行うことが義務化。 ①9受付件数：21件 ②0受付件数：244件	50%（20年度末見込み） 〔直近の実績〕 H21.2月末現在：41%
<p>（表彰理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度著しく多くの件数が予定されていたLPガス認定保安機関の更新事務について、事務所窓口での待ち時間や混乱を回避するため、新たにガス保安協会と連携して出張受付を行った今回の取り組みは、申請者がより身近なところで効率的に手続きが行えるようになり、サービス向上につながった。 ○また、ガス保安協会が事前に申請者のとりまとめを行い、時間指定などにより、適切な出張受付体制を整え、一度にまとまった処理も可能として、事務処理の効率化にも繋げた点は高く評価できる。 ○目標値には届かない見込みだが、目標値の設定根拠とした窓口での混乱回避は実現しており、所期の目的は達成できる。 	

**【努力賞】小粒でも影響多大な欲張り事務改善
－依頼先にも優しい調査事務の徹底見直し－（統計課）**

目 標 数 値 等	実 績
県民経済計算・財政収支調査の改善 ①調査事務経費の削減：▲40% （削減額：21千円）〔52千円〕 ②調査事務量の削減：▲10% （削減量：約6.3時間）〔62.6時間〕 ※〔 〕内は、前回H17～H18に実施した「県民経済計算・財政収支調査」の際の実績	▲58%（削減額：30千円） ▲29%（削減量：18.2時間）
<p>（表彰理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調査事務経費の削減に向け、発送・収受に電子メールを活用するとともに、郵送による場合には返信に安価な「郵便書簡」を利用。また、相手方の負担を軽減し、事務の簡素・効率化を図るため、調査対象の約4割について調査票を電子化し、郵便発送や収集情報の整理に係る事務量を大幅に削減した。 ○こうした今回の地道な取り組みは、高く評価でき、他の多くの調査事務等においても活用が可能であり波及効果も期待できる。 	

【継続努力賞】 県政情報発信の機能強化（県西地方総合事務所県民生活課）

目 標 数 値 等	実 績
「県民展示コーナー」（県西総合県民ギャラリー）訪問者数：1, 200人	1, 700人 （20年度末見込み） [直近の実績] H21.2月末現在：1, 491人 （展示期間のみの数値）11月から展示開始
（表彰理由） ○許認可申請やパスポート取得など、来庁者は限られた県民であったが、保育園児の作品展などを行ったことにより、作品制作者の家族など新たな来客層が生まれ、県民に身近な施設としてのPRにつながっている。 ○展示コーナー（県西総合県民ギャラリー）設置の波及効果として、隣接する県政情報や観光等のパンフレットを配置しているインフォメーションコーナーの利用が増え、広報誌等の持ち帰りが増加するなど、県政の情報発信の推進にも寄与している。 ○市内には、無料で展示できるスペースが少ないため、ニーズは高く、利用者に好評であり、県民サービスの向上の取り組みとして評価できる。 ○昨年度のインフォメーションコーナーのリニューアルに続き、職員一丸となって、更なる工夫を凝らしており、継続した努力が伺える。	